

## 希学園 第397回 小4公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第397回公開テスト 小4国語 解説動画(2025年6月8日実施)	<a href="https://vimeo.com/1091411877/e88e3fa51f">https://vimeo.com/1091411877/e88e3fa51f</a>

1

平和

転がる

冰山

重ね

路上

岸

2

な

が

気

お学

ア

イ

エ

うまれ

エ

3

エ

純動

ア

不

未

非

イ

ウ

ア

打算

善いく

条件

損得

(記述題)

3

義務として行わない

こと。

別解「無理をせず笑顔でやる」

(同意可)

配点	
1・2 1・3 4	各2点×13=26点
3 7 B II	6点
その他	各4点×17=68点
〈計〉100点	

1

- 1 「平」の横棒は下のほうを長くする。「和」の右側の「口」を続け字にしないように。
- 2 「云」の最後の二画を続け字にしないように。「転がる石に苔は付かない」はことわざとして知っておこう。
- 3 「氷」は「永」などと字形を混同しないように。「氷山の一角」は慣用表現として知っておこう。
- 4 「重」の縦棒の長さや筆順に気をつけて書きたい。
- 5 「路」の左側「あしへん」は「足」とは字形が異なるので気をつけよう。
- 6 「岸」のな中は「千」ではなく「干」である。

2

「おおなわ跳びません」 赤羽じゅんこ ※問題作成の都合上、一部表記を変更しています。

- 1 A「高なる(高鳴る)」はここでは胸がどきどきすること。B「とまどう」はどうしてよいかわからずまごつくこと。C「うながす」は早くするようにせきたてること。D「胸をなでおろす」は安心すること。
- 2 双葉の様子は決して平然としたものではない。みんなの前で「おおなわ大会は出ません」と発言することは、双葉にとってそれだけ自分を奮い立たせないといけないことなのである。「空気」をふりしぼった」につながるようにそれぞれさがそう。
- 3 双葉がおおなわ大会には出ないと発言したことで、クラスみんなはとまどったのであった。空らん直後が「したい」なので、それにつながるようにさがそう。
- 4 ア「にくたらしい」とは相手のことが嫌で許しがたいという意味なので、言いすぎである。イ「舞花に言い返したい」ウ「双葉をかわいそうに思う」エ「双葉の味方をしたい」はいずれも——線③直後の「だって…」以降と対応する。まわす係もできない事情があるにもかかわらず、それを知らない舞花の正論らしい発言に、双葉のせつかくの勇気が負けてしまいそうになっている。「わたし」はそんな双葉の味方なのである。
- 5 教室の空気がゆるんだ、というのは、双葉の「おおなわ大会は出ません」という発言によって気まづくなっていたクラスのみんなが、三浦舞花のもっともな発言に賛同し、拍手を送っている状況のことである。
- 6 次の日から学校に來なくなることからもわかるように、双葉は本気でおおなわ大会に出たくなかったのである。舞花やタケノコ先生の氣遣いによって心変わりなどしてはいない。しかし、クラスの微妙な力関係のなかではこれ以上ごねることは双葉にはできず、無理をして「まっすぐ黒板のほうを見て」、「明るい笑顔」を作っているのである。I〜IIIでは不自然に大きくポジティブなしぐさを見せているが、IVでは「じっと机を見つめてすわっている」。このときの双葉の表情を想像してみたい。
- 7 ア「スキンシップ」は肌と肌の触れ合い。イ「スポーツマンシップ」はスポーツマンとして正々堂々と全力でたたかう態度。ウ「リーダーシップ」はみんなをひきいる能力。エ「パートナーシップ」は協力関係。クラス内で大きな力を持つということ。を述べるには「リーダーシップ」がふさわしい。
- 8 「ハンディ」あるいは「ハンディキャップ」とは、社会的な不利や、身体的・精神的な障害を意味する。
- 9 ア「何でも」が誤り。「あのとき、なんで…って話してくれなかったんだろう」「だから、わたしは、…だいじょうぶなんだと思っただ」などに注目しよう。イ「つねに」が誤り。双葉の発言によって動揺させられていた。ウ「クラスの力関係をよく把握している」なら、双葉が舞花に強く言い返せず本心を押し殺すだろうということも分かるはずである。エ「差別」とは他よりも不当に低く扱うことであるが、クラスのみんなは足が少し悪い双葉を仲間はずれにしたりせず、うまく跳べたときには喜び、今年のおおなわ大会も一致団結してがんばろうとしている。それでも、双葉にとってはやはりおおなわ大会は負担なのである。

3

「自分で考える力を育てる10歳からのことも哲学 ツッコミー!日本むかし話」 大竹稽 ※問題作成の都合上、一部表記を変更しています。

- 1 本文最後の一文にもあるように、この文章は「善行の特徴」について述べた文章である。『笠地蔵』はその題材となっている。
- 2 「こういう心がけ」は「見返り」を求めることをさしている。続く部分ではそれを「条件」と「打算」に具体化して説明しており、「義務」の話に移るところで、「男は『AII条件』もつけず、『BII打算』もしないでお地蔵さんに笠をあげた。つまり、純粋な善意からの行動だったことは理解できた」とまとめている。ということは、条件をつけたり打算をしたりすると、「純粋な善意からの行動」ではなくなるのである。6で空らんA・Bを先にうめておいたほうがさがしやすい。
- 3 「労働を提供する」のような書き言葉らしい表現は、頭の中をかみ砕いて理解しながら読み進めることを習慣にしてほしい。
- 4 「無」はないこと、「未」はまだであること、「非」はそうでないことや間違っていること、「不」はそうでないことやそうしないことを意味する。
- 5 Iは直後が具体例であることから決める。IIは直後に筆者が一般論を認めている内容があることから決める。IIIは「…だれだつてやりたくない」それでも『義務』だったら、しっかりやろう」というつながり。
- 6 2の解説でも述べたが、「男は『A』もつけず、『B』もしないでお地蔵さんに笠をあげた。つまり、純粋な善意からの行動だったことは理解できた」とあり、ここより前に出てきた内容について述べている部分だとわかる。「もつけず」「もしないで」につながるようにさがそう。
- 7 A 基礎的な指示語の問い。直前の内容をさしている。「望まないけど」は、字数の面からも外れるが、内容面でも、「お返しを望まない」ということなのだから、次のBの一つ目にあたるため、外すべきであると判断できる。  
B 善行の特徴として、「条件」「打算」「義務」が並列されていたが、「条件」「打算」は「見返り」にまとめることができる。それが一つ目にあたる。「損得勘定」ということばも知っておこう。二つ目では「義務」を独立させるしかない。以上